

2017年12月17日 日曜礼拝メッセージ

聖書: マタイ1章18-25節 「メシヤの二つの名前」

## 序 論

- クリスマスを迎えるたびに思い出す出来事がある。次女のエステーが、まだ小学生だった頃、友人の誕生パーティーに招かれた時のことである。
  - ・いつものように、車でその女の子の家まで連れて行き、そこで降りて、数時間後に迎えに行った。
  - ・車を止め、降りて、すでに迎えに来ている父母たちとまだ遊んでいる子供たちの中に、自分の娘を探していると、一人の女の子が泣いているのを見た。「可哀そうに、せっかくのパーティーなのに、どうしたのか？」と思いつつ、通り過ぎ、娘を見つけて、一緒に車に乗って、帰路についた。
  - ・車の中で、娘に聞いた。「楽しかった？ ところで、さっき泣いている子がいたんだけど、あの子どうしたの？」と。
  - ・すると娘が、「あの子がバースデー・ガールなんだけど、皆が、他に楽しいものが一杯あって、それで夢中になって、誰もあの子と遊ばなかったの、寂しくて泣いていたんだ」と説明してくれた。
  - ・パーティーの中心である肝心のバースデー・ガールが忘れられ、そっちのけだったのである。
  - ・私は、クリスマスを迎える度にこのことを思い出す。なぜなら、ともすると、私たちは同じことをクリスマスにしているように思うからである。即ち、イエス様、そっちのけのクリスマスである。
  - ・私たちの願いは、このアドベント・シーズンに、私たちがもう一度クリスマスの理由であるイエス・キリストにフォーカスすることである。
- さて、今年もノーベル賞に日本人の名前を見ることができたことは嬉しいことであった。国籍としては英国人であるが、イシグロ・カズオ氏のノーベル文学賞がその一つであり、平和賞でも、ICAN という団体が核の廃絶運動で表彰された時の式典で、カナダ国籍の日本人サロー節子氏が記念演説をする荣誉に与った。
- 昨年は、大隈良典氏が生理学・医学の分野で、「オートファジー」の研究が認められて、ノーベル賞を単独受賞されたが、アニメーションの世界でも、著名なスペインの国際映画賞の長編アニメ部門で、「君の名は」という作品が最優秀賞を受賞した。
- 私のような年配者には、「君の名は」と聞けば、戦後すぐに、日本中を席卷し、番組放送中は、銭湯が空っぽになったと言うエピソードを残すほどに、人気を集めた菊池寛の小説を思い出す。「君の名は」という同じタイトルで、日本社会を席卷したとも言えるドラマがあったことを思いだすだろう。
- 「君の名は？」と問いたくなる。愛する人の名前を知りたい。その人を名前で呼びたい。人間の正直な心情である。なぜなら、その名前の中に、その人自身を感じるからである。
- もし、皆様が、New Born Baby のパーティーに行ったとするなら、最初の質問は「お名前は？」とベビーの名前を聞くであろう。子供の名前の背後には、しばしば両親の期待と希望が隠されている。
- それでは、クリスマスの中心、バースデー・ボーイである、私たちの救い主の名前は何なのか？ そして、その名前の背後にある父なる神様の意図、期待は何であったか？
- クリスマスにまつわる出来事を記したマタイによる福音書 1 章は、救い主の二つの名前を記している。一つは、イエスであり(21 節)、もう一つは、インマヌエルである(23 節)。
- 厳密に言うと、イエスは、個人名であり、インマヌエルは、タイトルである。しかし、聖書は、どちらについても、「その名は」と呼んでいる。(give him the name Jesus; they will call him Immanuel)
- これらの名前が、イエス様がどんな救い主かを示している。

## 本 論

### 1. 「イエス」という名前は何を表しているか？

#### A. この日本語で「イエス」と訳されている言葉は:

1. ギリシャ語では「イエスース」であり、ヘブル語では「イエホシュア」である。
2. その意味は、「ヤーウェー、即ち、神は救い・神様は救う」であった。

#### B. なぜ、この生まれて来る男の子に、そのような名前が付けられたのかについて:

1. 21 節はこのように言う。「イエスと名付けなさい。ご自分の民をその罪から救うからです」と。
2. 即ち、この救い主が、「イエス」と呼ばれた理由は、彼が私たちを罪から救うお方だからであると聖書は言う。

3. 世の中には、色々な「救い」がある。「金魚すくい」から始まって、「貧困からの救い」、「病気からの救い」、などなど。勿論、それらも確かに皆必要な救いである。
4. しかし、ここで言われていることは、「罪」からの救いである。
5. 神様は、経済問題、健康問題、その他どんなものにも勝って、まず、人を「罪から救う」ために「イエス」と名付けて救い主をこの地上に遣わされたのである。

### C. それでは、聖書が言う「罪」とは何か？ イエスは、私たちをどんな罪から救うと言うのか？

#### 1. それは、法律的な「犯罪」のことではない。

(1) 法律的犯罪は、英語で言うなら Crime であり、犯罪人は Criminal である。

(2) しかし、聖書がここで言う「罪」は、英語で言うなら SIN である。

(3) 私たちは皆が犯罪者(Criminals)ではない。しかし聖書は私たちは「皆罪人(Sinners)だ」と言う。

#### 2. それでは、聖書の言う罪とは何か？

(1) 第一に、罪とは、自己中心(Selfishness、Me-First、Me-Centered)である。

- 凶らずもの偶然であろうが、英語の S I N という言葉の綴りにも、このことが表されている。即ち、S I N の綴りの中心、ど真ん中は「I、私」である。
- 何をやっても、自分が目的になる、結局は「自分のため」、これが罪である。それは愛の正反対である。愛は相手が先に来る、相手の幸せが目的である。だから愛は相手に与える。
- しかし、罪が入ってくると愛さえ姿を変える。愛は自分のために相手から奪う。それゆえ、有島武郎は言った。罪人の愛について「愛は惜しみなく奪う」と言った。
- 罪が入ってくるとき、愛という言葉借りてさえ、人は自分を追求するのである。美しい親切や善行さえ、人のためにではなく、自分のためにするのである。

(2) 第二に、罪とは「傲慢」である。

- しばしば、言われることであるが、私たちは、「自分で、自分の力で生きている」のではない。私たちは「生かされている」のであると。
- そもそも、誰も自分で、自分の力で生まれて来た人はいない。だから、英語で(ドイツ語でも)、「生まれる」とことを I was born と受動態で表す。
- 私たちはみな、神さまに生かされているのである。宗教を持っていようとまいと、私たちは皆、神さまによって生かされているのである。
- 「これは私の人生だ。誰にも何だかんだ言われたくない」とよく聞く。これこそが傲慢である。
- あなたの人生、あなたの賜物、それらは、元々神様からもらったものではないのか？ だから誰も、これは私の人生などと言えない、皆頂いた人生である、私たちは、私たちの人生の所有者ではない、管理人である。
- 聖書は言う。「あなたには何かもらったものでないものがあるのですか。もしもらったのなら、なぜ、もらっていないかのように誇るのですか、傲慢になるのですか」(I コリント 4 章 7 節)。

(3) 第三に、罪とは、「的外れ」の人生である。あるべき軌道・姿から外れて迷っている状態である。

- 21 節で「罪から救うからです」と言う時、「罪」と訳されている元のギリシャ語の言葉は、「ハマルティア」である。
- それは、「的から外れている」「基準・軌道から外れている」という意味である。即ち、人間が本来あるべき姿から外れていること、それが罪である。
- 聖書は、人間のあるべき姿を、羊と羊飼いの関係に譬えている。即ち、私たちが羊であり、神様が羊飼いである。
- 羊は、羊飼いと共に生きるべく造られている。その状態が羊に最高の幸せを約束する。羊の不幸とは、その羊飼いから離れて、迷い出ることである。この状態を聖書は罪と呼ぶ。
- 一杯良い物を持っている。しかし、一体それらを何のためにどのように使うべきか、一体私はどこから来て、どこへ行くのか？ 一体私は何者で、何をすべきか、何のために生きるべきか？ それらの回答を持たないまま迷っている人生、それが聖書の言う、罪人の姿である。

### II. それでは、「インマヌエル」という名前は、どんな救い主を表しているか？

#### A. 「インマヌエル」とは、ヘブル語で「神、我らと共にいます」の意味である。

救い主イエス様によって、私たちは「神様が共におられる」と言う事実を実体験できるのである。

## B. そもそも、人間は、一人で生きるように造られてはいない。

1. 最近、NHK のテレビで、「友達をレンタルする」最近の社会現象を取り上げていた。
  - (1)退職して職場での友達関係の亡くなった人が友達欲しさにレンタルする。
  - (2)20代の女性は、自分に色々な友達がいることを見せるために、「友達」を2人レンタルして、「インスタ映え」のする背景で写真を撮ってSNSで配信する。沢山友達がいることが、ステータスになって、それを見せびらかすように「友達こんなにいます」を宣伝するためである。
  - (3)しかし、ある意味で、これらの傾向は、みな人間が、そもそも友達を必要とする、即ち、一人では生きられないことを証していると言える。
2. 神様も、創世記で、人間を造られたとき、このように言われた。「人が一人でいるのは良くない」と。
3. 即ち、人は誰かが共にいることを必要としている。何か嬉しいことがあったとき、その喜びを分かち合う人が、その逆に悲しみがあるとき、それを分かち合う人が、必要である。
4. そのため、夫婦であり、親子であり、家族であり、友人である。
5. しかし、残念ながら、罪のゆえに、人間の力の限界のゆえに、それがかなわないことも一杯ある。死による別離を筆頭に、一緒にいたくても、いられない様々な事情がある。
6. だから人は、悲しい孤独を経験する。井伏鱒二と言う小説家は、サンショウウオと言う小説の中で、主人公の山椒魚に言わせる。「寒いほど孤独だ」と。孤独は寒い。つらいと彼は言うのである。
7. しかし、ここに私たちを決して一人ぼっちにしないお方がおられる。私たちの救い主イエスである。
  - (1)私は決してあなたを離れず、またあなたを捨てない(ヘブル 13章 5節)
  - (2)女が自分の乳飲み子を忘れようか。自分の胎の子を憐れまないだろうか。たとい女たちが忘れてもこの私はあなたを忘れない。見よ。私は手のひらにあなたを刻んだ(イザヤ 49章 15-16節)
  - (3)見よ。私は世の終わりまで、いつも、あなたがたと共にいます。(マタイ 28章 20節)
8. 10才の時赤痢の高熱から、自分で動かせる運動機能のすべてを失い、できることは瞬きだけになってしまった水野源三氏。彼は、15才のとき、主イエス様と出会い、救い主として受け入れ、生涯が変わった。次の詩は、その彼が、瞬きで綴った救い主なる主がどんなときにも、いつも私たちと共におられるインマヌエルなるお方であることの証人として書いたものである。

親しき友人が皆 別れていくときも  
一人ではない 一人ではない  
死んでよみがえられた  
イエス・キリストが話し掛けたもう  
その耳で聞けよ  
頼りなき 自分に失望するときも  
一人ではない 一人ではない  
死んでよみがえられたイエス・キリストが  
励ましたもうその口でたたえよ。

### 結 論

- クリスマスに、私たちが、その誕生を感謝し、祝う私たちの救い主イエス様は、どんなお方か？ どんな救い主か？
- それは彼の持つ二つの名前が表している。
- 一つは、イエスであり、私たちに罪から救うお方である。
- もう一つは、インマヌエルであり、いつも、どんなときにも、私たちと共におられるお方である。
- もし、これらの祝福を既に経験した、或いは、経験し始めておられるなら、そのことを感謝しましょう。そして、その経験をもっともっと豊かに、深く経験していきましょう。
- まだなら、このお方をイエスとして、インマヌエルなるお方として信じ受け入れましょう。祈ります。